

事業報告

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、前半は新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類となり消費者の外出への警戒感が薄れたものの物価高を要因とする実質賃金の伸び悩みなどから個人消費が弱い足取りとなりました。後半は能登半島地震により被災地を中心とする経済活動の停滞や観光需要の減少はあったものの、設備投資や外需を要因として底堅い動きとなり、全体として見れば低水準ながらプラス成長の動きとなりました。

一方、県内経済は、生産活動や住宅投資に弱さが見られたものの個人消費や観光需要は拡大の動きとなったほか雇用情勢も基調として明るさが続くなど、全体として緩やかな回復の動きとなりました。

こうした中、当社において、震災学習列車は2022年度に引き続き年間1万人を超える多くの方々に利用いただいたほか、プレミアムランチ列車（5～6月、10～11月）、かいけつゾロリ列車（7～9月）、こたつ列車・洋風こたつ列車（12～3月）、沿線市町村のウォーキング企画であるトレイン&トレイル（9～3月）や復興道路を活用して八戸から誘客を図るさんてつ縦断駅伝列車などの企画列車の実施、三陸元気！GoGo号や人気アニメなど魅力的なラッピング列車の運行などにより収入確保に努めました。また、お絵かき遠足列車（5～10月）や小中学生用特別回数乗車券の発売等により、園児から高校生まで広く子どもたちの乗車機会の創出に取り組みました。

このほか、台北・いわて花巻空港間の国際定期便の運航再開、大型客船の入港、みちのく潮風トレイルの人気などにより、外国人観光客の乗車も増加しました。

さらに、「旅せよ平日！JR東日本たびキュン♥早割パス」（2～3月）などを活用して、多くの方が三陸鉄道にも乗車されました。

この結果、輸送人員は、沿線の少子化等の影響を受けているものの、地元利用や観光利用が持ち直したことにより前年度比101.4%の618,958人となりました。また、鉄道事業収入も、地元利用・観光利用の持ち直しにより前年度比108.6%の386,524千円となりました。

関連事業収入では、旅行業において震災学習列車の乗車人員が前年度に引き続き1万人を超える利用となりましたが、「いわて旅応援プロジェクト」の終了による個人商品の売上減により前年度比51.5%となりました。物産事業においても、直営店「さんてつや」の売上が過去最高となりましたが、オンラインショップの売上減により前年度比92.1%となり、関連事業収入全体では前年比68.8%の43,717千円となりました。

経常費用については、修繕費、損害保険料、水道光熱費などが増加したことにより、前年度比103.1%の1,124,887千円となりました。

その結果、経常利益は▲667,211千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は26,778千円と前年度と比べて27,584千円の増益、計画と比べて170,139千円の増益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、橋梁の改修や通信ケーブルの増設、マクラギのPC化工事、継電連動の更新工事を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害や事故の防止に取り組み、鉄道事故0件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	2023年度 実績	2022年度 実績	前年度 増減	前年度比	2023年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	386,524	356,050	30,474	108.6%	430,832	▲44,308	89.7%
関連事業収入	43,717	63,526	▲19,809	68.8%	52,612	▲8,895	83.1%
営業外収益	27,435	16,589	10,846	165.4%	10,400	17,035	263.8%
経常費用	1,124,887	1,091,182	33,705	103.1%	1,137,814	▲12,927	98.9%
経常利益	▲667,211	▲655,017	▲12,194	—	▲643,970	▲23,241	—
特別損益	705,186	661,693	43,493	—	507,313	197,873	—
法人税等	11,197	7,482	3,715	—	6,704	4,493	—
当期純利益	26,778	▲806	27,584	—	▲143,361	170,139	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

2023年度の乗車人員については、沿線の少子化等に伴い、定期が前年度比94.7%の348,449人となったものの、定期外での地元利用や観光利用が持ち直し同111.6%の270,509人となり、全体では同101.4%の618,958人となりました。

運輸収入については、新型コロナウイルス感染症による行動制限がなく地元利用や観光利用が持ち直し、一般個札が前年度比111.6%、一般団体が同126.1%となったことなどにより、全体では同110.8%の335,704千円となりました。

○リアス線全体乗車人員

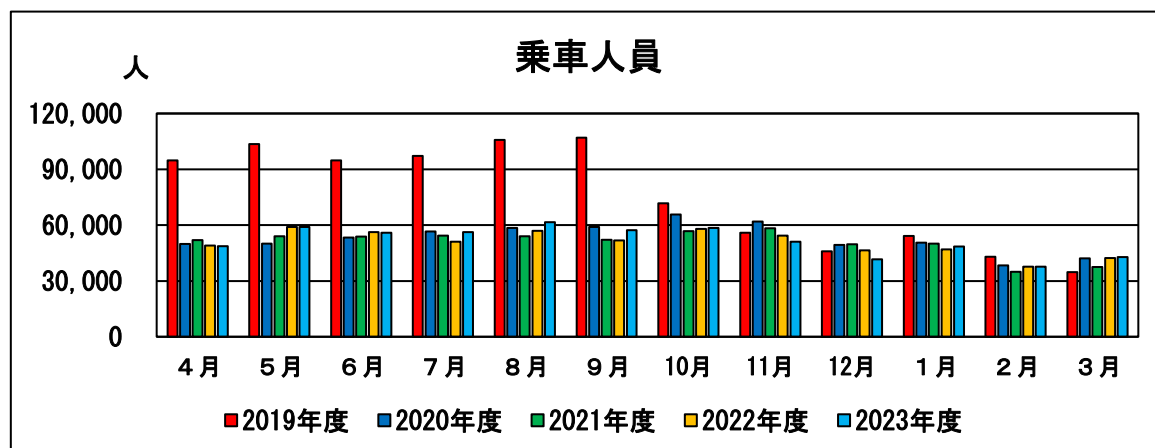
(単位：人)

項目	2023年度	2022年度	増減	前年度比	2019年度
乗車人員	618,958	610,118	8,840	101.4%	908,645
定期	348,449	367,761	▲19,312	94.7%	512,622
定期外	270,509	242,357	28,152	111.6%	396,023

○線別乗車人員※1

盛～釜石間	104,336	122,673	▲18,337	85.1%	177,717
釜石～宮古間	252,007	242,445	9,562	103.9%	436,895
宮古～久慈間	308,934	293,310	15,624	105.3%	380,351

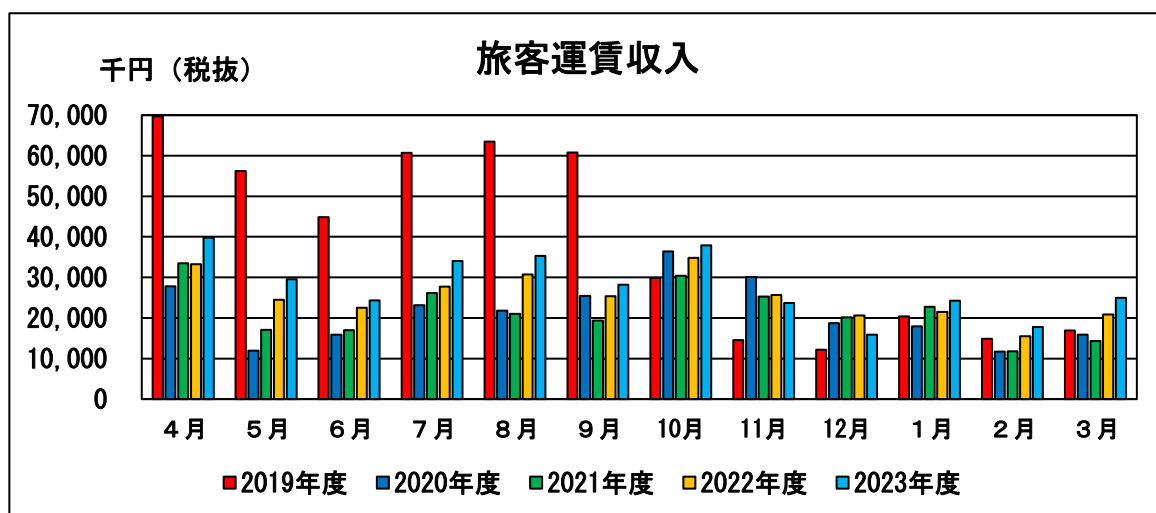
※1 線別乗車人員は、各路線を跨る乗車の場合、それぞれ1人乗車とカウントしてあるためリアス線全体の合計とは一致しません。



○運輸収入

(単位：千円※税抜)

項目	2023年度	2022年度	増減	前年度比	2019年度
運輸収入	335,704	303,009	32,695	110.8%	464,469
定期	78,854	78,480	374	100.5%	108,286
定期外計	256,850	224,529	32,321	114.4%	356,183
一般個札	162,104	145,286	16,818	111.6%	228,912
観光個札	36,774	28,544	8,230	128.8%	34,930
一般団体	26,563	21,071	5,492	126.1%	43,181
観光団体	31,409	29,628	1,781	106.0%	49,160



② 運転状況

2023年度の定期列車については、1日当たり、盛～釜石間で22本、釜石～宮古間を同じく22本、岩手船越～宮古間で1本、宮古～久慈間で24本を運転しました。

【運転状況】

駅 間	盛～釜石	釜石～宮古	岩手船越～宮古	宮古～久慈
列車本数	22本	22本	1本	24本

③ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

なお2023年度は、「洋風こたつ列車」・「こたつ列車」や「かいけつゾロリ列車」・「プレミアムランチ列車」・「ナイトジャングルトレイン」などを運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピングの実施等、他社と連携した企画も積極的に実施しました。

【主な観光列車】

- ・洋風こたつ列車 宮古～釜石駅間 (12月9日～2月25日の土休日)
- ・こたつ列車 宮古～久慈駅間 (12月16日～3月24日の土休日)

【主なイベント列車】

- ・さくら浪漫号夜桜列車 (4月14日 1回)

- ・かいけつゾロリ列車
宮古～陸中山田駅間（7月15日～8月20日 12回）
宮古～久慈駅間（8月26日～9月10日 5回）
- ・プレミアムランチ列車
宮古～久慈駅間（5月20日～6月25日の土休日 12回）
盛～釜石駅間（10月7日～11月12日の土休日 13回）
- ・三鉄リアスワイン列車（6月24日 1回）
- ・ナイトジャングルトレイン（8月5日 1回）
- ・夜行列車「さんりくあさかぜ号」（9月16～17日 1回）
- ・さんてつ縦断駅伝列車の旅（10月28～29日・11月11～12日 2回）
- ・女子が楽しむ日本酒列車（1月26日 1回）
- ・「復興の今、学習列車」ツアー（2月15日・3月7日 2回）

【他鉄道会社との共同企画列車】

東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社

- ・三鉄車両で行く！大船渡線乾杯列車（11月23日） 大船渡線へ乗入
- ・東北本線リアス号（12月23日・3月31日） 東北本線へ乗入
- ・さんりくリアス号（3月23日～3月24日） 盛岡～釜石間で相互乗入

【その他】

- ・「三陸元気！G o G o号」の定時運行（4月15日～3月31日）
- ・やませジョイフルよ市きっぷを発売（5月～10月）
- ・全国のセブン・イレブン店舗内マルチコピー機でフリー乗車券の販売（12月15日～）
- ・岩手ビッグブルズ応援特別乗車券（2月21日～3月19日）
- ・小中学生用特別回数券を発売（2021年12月1日～）
- ・山田町中学生地域限定回数券を発売（2020年10月1日～）
- ・デジタルスタンプアプリ「エキタグ」設置（1月1日～）

⑤ 鉄印帳の発売（2020年度から継続）

- ・第三セクター鉄道等協議会加盟40社共同企画として鉄印帳を発売
桃太郎電鉄Verの鉄印帳・鉄印の発売（4月22日～）

⑥ インバウンド対応

- ・大型客船入港に合わせた対応
個人観光客用のバウチャー券発売
旅行会社主催のOPツアーに合わせた貸切列車・震災学習列車の運行
- ・台湾旅行団体利用 98件 2,498名

⑦ 企業等との連携

- ・企業ヘッドマーク及び車両ラッピングの実施
ヘッドマーク ブラザー工業(株)、岩手日報広告社、KDDI(株)、(株)阪急交通社等
車両ラッピング イオン東北(株)、ライオンズクラブ、一社ブルーオーシャン岩手等

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

2023年度は、「いわて旅応援プロジェクト」の終了に伴い、個人向け商品の発売が減少したものの、団体扱いが持ち直しつつあるほか、三陸ジオパーク推進協議会や三陸DMOセンターと連携した「トレイン&トレイル」企画を新たに実施し収入の確保に努めました。

また、募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、震災学習列車では利用者数が昨年度に続き1万人を超える利用となりました。

【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：オリジナル震災復興研修 4件 75名参加（前年度2件 51名）
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 4件 176名参加（前年度6件 221名）
- ・募集团体：かいけつゾロリ列車企画 17回 514名参加（前年度12回 400名）
- ・震災学習列車：213件 10,116名参加（前年度249件 11,997名参加）
- ・トレイン&トレイル：9件 156人
- ・三鉄沿線の旅：77件 166人

② 物産事業

ア 直営店「さんてつや」の営業

沿線市町村を中心とした特産品や当社オリジナルグッズを販売（店舗売上 38,809千円）。

イ オンラインショップの運営

当社オリジナルグッズを中心に販売を強化したほか、定期的にセールを実施し、売上強化に努めました（売上 20,098千円）。

ウ オリジナル商品の開発・販売

- ・「三鉄プレミアムラガー」・「三鉄アイス」・「36-700形Nゲージ」・「さんてつカレンダー」・「三鉄マグネット」等、計8品
- ・三鉄ギフト（夏・冬）の販売
夏（6月～8月）[8,406千円]・冬（11月～1月）[9,238千円]
- ・地元菓子店「DOUNEL」とのコラボレーションによるバレンタイン企画を実施
「久慈ありすバレンタインショコラ 2024」・「釜石まなバレンタインショコラ 2024」

エ イベント外販

- ・沿線市町村・関係団体等との連携によるイベントへの出店（40回）。

オ ふるさと納税返礼品対応

件数：300件 取扱額 344千円

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、2023年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

なお、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

また、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 安全対策事業

- ・鉄道軌道安全輸送設備等整備事業
リアス線・佐野架道橋外7橋りょう改修工事
- リアス線・唐丹～釜石駅間通信ケーブル増設工事
- リアス線・盛～綾里駅間マクラギPC化工事
- リアス線・田野畑駅・普代駅・野田玉川駅継電連動更新工事

② 保安対策事業

- ・外部訓練会・講習会への参加
- ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施
- ・異常時対応の実車訓練を実施（津波想定）

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・運営費補助（設備維持補助）	301,030 千円
・運営費補助（人材確保支援）	15,000 千円
・鉄道安全輸送設備等整備事業補助	312,671 千円
・三陸鉄道経営移管交付金	191,283 千円
・三陸鉄道運行支援交付金	180,000 千円
・地域公共交通確保維持改善事業費補助	28,699 千円
・インバウンドプロモーション支援事業補助	456 千円
・三陸鉄道Webコンテンツバージョンアップ補助	1,375 千円
・宮古駅移動等円滑化施設整備事業費補助	523,975 千円

3 対処すべき課題

2023年度（第43期）は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、地元利用や観光利用も持ち直しつつあり、鉄道運賃収入は増加しました。

一方で、修繕費、燃料費高騰の影響等により経常費用が増加したことにより、経常損益が悪化しており、厳しい経営状況となりました。

2024年度（第44期）も、安全で安心な輸送の確保を基本に、4月から3月までの1年間を開業40周年と位置づけ、三陸鉄道の歩みや価値を改めて沿線地域と共有し、沿線住民のマイレール意識の高揚に取り組むとともに、これまで国内外からいただいた支援への感謝を伝え、更なる利用促進・増収に向けた取り組みを強化していきます。

また、平成31年1月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、「安全・快適な輸送サービスの確保」、「利用促進等による収入の確保」、「一貫運行による経営の改善等」に引き続き取り組み、安全性・利便性の向上や投資計画・経費構造の抜本的な見直し、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を図っていきます。

さらに、国際目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の考え方を取り込み、事業を通じてSDGsの課題解決に貢献するとともに、事業の持続的な成長を目指します。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 849,302 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助金	312,671 千円
(1) リアス線・佐野架道橋外 7 橋りょう改修工事	38,820 千円
(2) リアス線・唐丹～釜石駅間通信ケーブル増設工事	90,455 千円
(3) リアス線・盛～綾里駅間マクラギPC化工事	66,382 千円
(4) リアス線・田野畑駅・普代駅・野田玉川駅継電連動更新工事	117,014 千円
○ 三陸鉄道運営費補助金（設備維持補助金）	31,857 千円
(1) リアス線・変圧器更新工事代	8,947 千円
(2) リアス線・4 擁壁改修外 1 工事	22,910 千円
○ 宮古駅移動等円滑化施設整備事業費補助金	501,024 千円
(1) 宮古駅バリアフリー設備新設工事（エレベーター）	501,024 千円
○ 三陸鉄道Webコンテンツバージョンアップ補助金	3,750 千円
(1) 三鉄アプリ改修及びWebページ製作	3,750 千円

5 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	2020 年度 (第 40 期)	2021 年度 (第 41 期)	2022 年度 (第 42 期)	2023 年度 (第 43 期)
営業収益	398,443 千円	412,973 千円	436,165 千円	457,676 千円
当期純利益	3,752 千円	▲4,501 千円	▲806 千円	26,778 千円
1 株当たり当期純利益	122 円	▲147 円	▲26 円	875 円
総資産合計	2,651,915 千円	1,293,056 千円	910,244 千円	1,492,865 千円

6 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第 1 種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第 2 種旅行業
- (3) 物品販売業

7 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町 4 番地
事業所	・ 事業本部 宮古市栄町 4 番地
	・ 運行本部 宮古市宮町 1 丁目 1-19
	・ 施設本部 宮古市宮町 1 丁目 1-50
	・ 旅客営業部 宮古市宮町 1 丁目 1-80
	宮古駅 宮古市宮町 1 丁目 1-80
	・ 大船渡派出所 大船渡市盛町馬場 4-4
	盛駅 大船渡市盛町東町裏 16
	釜石駅 釜石市鈴子町 22-5
	・ 久慈派出所 久慈市川崎町 10-20

※市町村等への業務委託駅：大槌駅・陸中山田駅（休業駅：田老駅）岩泉小本駅・島越駅
田野畑駅・普代駅・陸中野田駅・久慈駅

8 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	88 名	42.7 才	15 年 8 ヶ月
女 子	10 名	30.6 才	4 年 3 ヶ月
計	98 名	41.4 才	14 年 6 ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員 22 名、パート従業員 1 名、岩手県から 1 名、東日本旅客鉄道(株)から出向 19 名を受入れています。

なお、2023 年 4 月 28 日付けで 1 名、5 月 15 日付けで 1 名、5 月 31 日付けで 1 名、7 月 31 日付けで 1 名、12 月 31 日付けで 2 名、2024 年 2 月 29 日付けで 1 名、3 月 31 日付けで 4 名が退職いたしました。

9 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の 75.8% (23,200 株) の出資を受けています。

※ 岩手県 47.1% (14,400 株)、沿線市町村 22.2% (6,800 株)、沿線外市町村 6.5% (2,000 株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000 株
- 2 発行済株式の総数 30,600 株
- 3 当事業年度末の株主 46 名
- 4 主な株主の状況

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
岩 手 県	14,400 株	47.1%
宮 古 市	1,350 株	4.4%
(株) 岩 手 銀 行	1,200 株	3.9%
大 船 渡 市	1,150 株	3.8%
日 本 製 鉄 (株)	1,000 株	3.3%
東 北 電 力 (株)	1,000 株	3.3%
一 関 市	700 株	2.3%
久 慈 市	650 株	2.1%
釜 石 市	650 株	2.1%

Ⅲ 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

(2024年3月31日現在)

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増 拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本 正徳	宮古市長
取締役副会長	淵上 清	大船渡市長
取締役副会長	遠藤 譲一	久慈市長
代表取締役社長	石川 義晃	
取締役	平野 公三	大槌町長
取締役	佐藤 信逸	山田町長
取締役	中居 健一	岩泉町長
取締役	佐々木 靖	田野畑村長
取締役	榎屋 伸夫	普代村長
取締役	小田 祐士	野田村長
取締役	岡田 真一	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井 誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	熊谷 泰樹	岩手県ふるさと振興部長
取締役	金野 淳一	
取締役	村上 富男	
監査役	岩山 徹	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚 恭路	(株)北日本銀行 代表取締役頭取

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,040千円

監査役の報酬はありません。

Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。